

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和7年10月31日
小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数・理科・意識調査）の本校の結果をお知らせします。各教科については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。また、生活習慣に関する児童質問紙調査については、数値が特に高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

教科に関する調査の結果のポイント【全国】

【国語科】

- 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題が見られた。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。
→文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要。

【算数科・数学科】

- 数直線上の分数を捉えることや、百分率を倍を使って捉え直し表現することに課題が見られた。
- あらかじめ書かれている図形の証明を評価・改善することに課題が見られた。
→基準となる数を見だし数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要。

【理科】

- 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られた。
- 化学変化を原子や分子のモデルで表すことに課題が見られた。
→問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要。

※R7.7 文部科学省・国立教育政策研究所資料参照

本校の全体の正答率について

国語科、算数科、理科の全体の正答率は、国の平均を大きく下回り、県の平均をやや下回っていました。

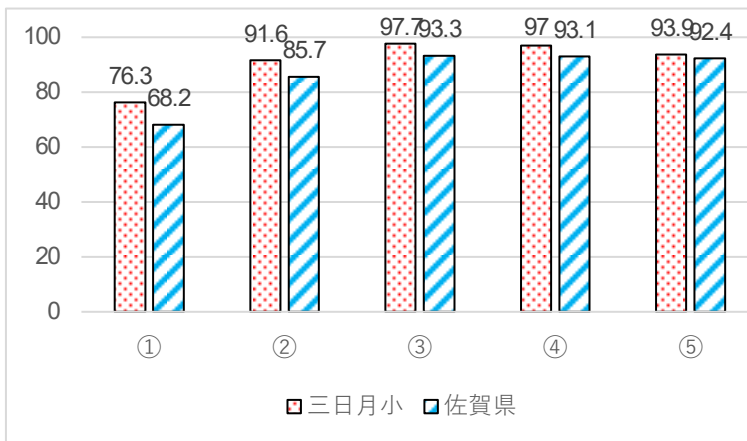
本校の取り組みについて

8月に職員研修を行い、今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、授業の改善等に生かし、学力の向上を図っていきます。家庭学習の具体的な取り組みやお願いについては9月に「授業及び家庭学習の取り組みについて」を配付しています。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着を図ることができます。本校の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
②	学校に行くのは楽しいと思いますか
③	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
④	朝食を毎日食べていますか
⑤	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

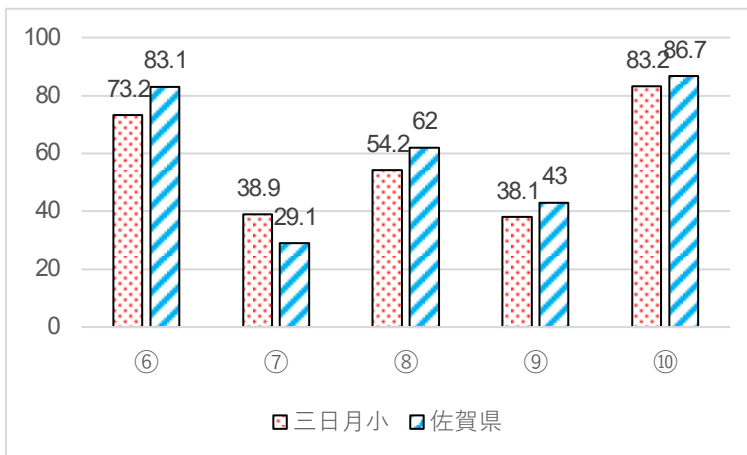


分析と取り組み

身の回りに自分のよいところや、がんばっている様子を見てくれている人がいること、不安なときに相談できる大人がいることで児童は安心して学校で過ごすことができていると考えられる。これからも教育相談週間等を活用し、児童の声に耳を傾け、問題を発見したら早期対応をしていかなければならない。

【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
⑥	将来の夢や目標をもっていますか
⑦	普段1日あたりどれくらい読書を読みますか（全くしないと回答した児童の割合）
⑧	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
⑨	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか
⑩	自分には、よいところがあると思いますか



分析と取り組み

将来の夢や目標をもっている児童の割合が低かった。発達段階に合わせて、計画的にキャリア教育をしていく必要がある。
⑩は、⑤と相反する結果となった。児童の自己肯定感を高めるためには、教師、家族が褒めるだけでなく、子ども同士でも褒め合うことができるようにしていく必要がある。

◆令和7年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・全体的に見ると県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」について、県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。
- ・特に「情報の扱い方に関する事項」、解答形式が「選択」の設問が目標値を大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。これまで話合いの記録を図で表す経験があまりなかったため、図と文章を関連付けることができなかった。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科に限らず他の教科でも、話合い活動をするときに、その話を図でまとめたり、自分で要約したりする活動を仕組み、図と文章を関連付けることができるようにする。 ・漢字の学習の時に、同音異義語を取り上げたり、日々の漢字の宿題では、単語だけではなく、文の中の言葉として書かせたりして、言葉の意味を理解できるようにする。また、読書や音読を推奨し、長文に慣れ親しむことができるようにする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動をするとき、友達の考えを聞いたら自分の考えと比較してから自分の考えを言うことができるようにする。 ・複数の資料を活用した話合い活動を仕組み、多くの資料から自分の必要な情報を見付けることができるようにする。 ・自分の考えをまとめるときに、文章だけでなく図式化したり、資料の数やスライドの数を指定したりするなど、条件を与えて取り組ませることで、一定の条件の中で自分の考えがより伝わるような工夫ができるようにする。

◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・ 全体的に見ると県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。
- ・ 観点別に見ると、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」について、県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。
- ・ 領域別に見ると、「B 図形」「C 測定」「D 変化と関係」については、県平均も全国平均も大きく下回っていたものの、「A 数と計算領域」については県平均とほぼ同じだった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかを見る問題や、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題、角の大きさについて理解しているかどうかを見る問題に課題が見られた。 ・ 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめの時間に作図する時間を十分に取るようにする。学習後も作図の課題を定期的に出題して定着を図る。 ・ 学習後、教室や廊下などに学習の足跡を掲示し、児童の目に触れさせるようにして、課題を定期的に出題して定着を図る。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・ 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見い出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科でも多くの資料から必要な情報を選択し、自分の考えを記述する学習を定期的に行なう。 ・ 算数科で学び合いをするとき、式や言葉を用いて説明する活動をする。そのときに、ペアやグループで取り組むようにしたり、友達の説明を聞いて真似をしたりすることで多くの児童が考えを説明する機会を増やす。

◆令和7年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 理科 》

全体の概要

- ・全体的に見ると県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」は全国平均、県平均とほぼ同じだったが、「思考・判断・表現」は県平均をやや下回り、全国平均を大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題に課題があった。 ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことについて、生活の中にあるものを取り上げ、生活と結びつけることで知識の定着を図る。 ・結果を図や表、文で整理させる。整理したことを元に話し合ったり、確認したりして知識を定着させる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 ・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決するための実験方法を考える活動を取り入れたり、教科書の実験方法を説明したりする活動を取り入れる。その際、条件を整理させ、情報処理能力を高める。 ・実験や観察を行うときに、結果と考察を整理して表現できるようにする。教科書の実験を試みせるだけでなく、児童自身が考え、予想し確かめる活動を重視する。 ・自分の考えを図や表にまとめたり、説明したりする学習を習慣化させる。